

24 感染症内科研修プログラムの概要

1. プログラムの目的と特徴

当院は新潟市の中核病院として存在し、救命救急センター、一類感染症対応病床を含む感染症病床を有する。また、日本では、感染症という診療領域はまだ確立されたとは言えない。そのため、当院は感染症をトータルに学べる、まだ数少ない施設である。このプログラムは、アメリカの感染症診療を手本としつつ、日本に適した形態をレジデントの皆さんと一緒に作り上げていくことを目的としている。

レジデントの新しい経験が即、日本の感染症診療を築くための戦力として求められている。

また、新潟大学との連携により、学位を取得することも可能である。

2. 研修内容と到達目標

1年目・2年目

- まず、一般内科医としての素養を身につける。同時に病院内の全科の診療内容を理解する。
- 疫学、微生物学、症例をまとめるなど、感染症医となる基礎を身につける

1) 呼吸器内科研修

感染症の分野で最も頻度の多い呼吸器内科において主治医として、主に呼吸器感染症の分野の研修を行う。この期間に当院の主治医としてのシステムについての理解を深める。

2) 疫学

感染症対策委員会、インフェクションコントロールチームラウンドへの参加を通して院内全体の感染症の動向を把握する。

3) 微生物学

臨床微生物学の実践を経験する（細菌検査室へのローテーションなど）。

4) カンファレンス

呼吸器／感染症症例検討会が週一回開催されている。参加はもちろん、積極的に経験症例を呈示する。特に興味深い症例に関しては論文に仕上げることで知識を蓄積していく。

5) HIV 患者の診療

入院及び外来診療を経験する

3年目

- 1年目・2年目で学んだ基礎を身につけ、自分のものとする。
- マラリアや一類感染症疑い例など、当院に特徴的な症例を経験する。
- 学んだことを臨床研究という形で論文にする。
- 指導医とともに入院患者の診療、各科コンサルテーションにあたる。

1) 感染症コンサルテーション

2年間の研修をふまえて、他科の先生と関わりながら感染症医としてコンサルト対応を担当する。指導医が最終確認を行うが、当初の対応については、実践を通して、コンサルテーションの妙味を経験できる。

2) 新興再興感染症の入院症例を経験する

3) 以下の項目は追加項目のうちで、臨床能力を高めるために推奨される

(ア) 旅行医学、旅行者外来

(イ) 抗菌薬の院内利用状況調査および適正使用への助言

(ウ) リスクマネジメント

(エ) 医療経済学